

## 2020年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年4月9日

上場会社名 ニッケ（日本毛織株式会社） 上場取引所 東  
 コード番号 3201 URL http://www.nikke.co.jp  
 代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）富田 一弥  
 問合せ先責任者 （役職名）執行役員 経営戦略センター財經室長 （氏名）藤原 浩司 TEL 06-6205-6635  
 四半期報告書提出予定日 2020年4月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2020年11月期第1四半期の連結業績（2019年12月1日～2020年2月29日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年11月期第1四半期	25,856	△7.2	1,832	11.8	1,937	8.8	1,210	21.3
2019年11月期第1四半期	27,856	8.3	1,639	△4.8	1,780	4.3	998	9.6

（注）包括利益 2020年11月期第1四半期 917百万円（－％） 2019年11月期第1四半期 △242百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年11月期第1四半期	16.65	—
2019年11月期第1四半期	13.73	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年11月期第1四半期	145,628	93,249	63.1	1,263.71
2019年11月期	148,707	93,344	61.8	1,264.35

（参考）自己資本 2020年11月期第1四半期 91,863百万円 2019年11月期 91,910百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期	—	12.00	—	14.00	26.00
2020年11月期	—	—	—	—	—
2020年11月期（予想）	—	12.00	—	14.00	26.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2020年11月期の連結業績予想（2019年12月1日～2020年11月30日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000	△13.0	8,700	△16.9	9,000	△19.4	5,700	△12.6	77.45

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年11月期 1 Q	86,478,858株	2019年11月期	86,478,858株
② 期末自己株式数	2020年11月期 1 Q	13,785,417株	2019年11月期	13,785,202株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年11月期 1 Q	72,693,589株	2019年11月期 1 Q	72,694,718株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、上記の予想と実績との間には、今後の様々な要因によって差異が生じる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 業績の状況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

## (1) 経営成績の状況

ニッケグループは、中長期ビジョン「RN（リニューアル・ニッケ）130ビジョン」において、今後10年間の目指す方向性、企業像、経営戦略を再構築し、更なる中長期的な企業価値の向上を目指すことを掲げております。当連結会計年度は「RN130ビジョン」の具現化に向けて、第1次中期経営計画（2017～2019）3ヶ年の取り組みを改めて検証するとともに、更なる強固な事業基盤の構築と中長期の戦略策定に努めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高25,856百万円（前年同期比7.2%減）、営業利益1,832百万円（前年同期比11.8%増）、経常利益1,937百万円（前年同期比8.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,210百万円（前年同期比21.3%増）となりました。人とみらい開発事業で通信関連分野における事業再編の影響等により減収となりましたが、産業機材事業が堅調に推移し増益となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

## ①衣料繊維事業

衣料繊維事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高6,068百万円（前年同期比9.4%減）、営業利益は104百万円（前年同期比58.6%増）となりました。

## （ユニフォーム分野）

学校制服用素材の販売は、新入学生向け追加受注が増加した事等が寄与し堅調でした。官公庁制服用素材は、警察および消防ともに受注数は前年同期並みでしたが、流通在庫の調整により販売が減少しました。一般企業制服用素材の販売は、新規・更改物件数が旺盛であった前期末と比べ、低調でした。

## （テキスタイル分野）

一般衣料用素材は、国内販売は昨年の消費増税後の市況悪化が影響し低調でした。海外販売は販売時期のずれ込みにより前年同期に比べて受注が減少し低調でした。

## （ヤーン分野）

糸糸は、高付加価値品に販売を絞った影響に加え、昨年の消費増税後の市況悪化により、低調でした。

## ②産業機材事業

産業機材事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高5,560百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益299百万円（前年同期比75.2%増）となりました。

## （自動車関連分野）

自動車生産が堅調から低調へ転じるものの、車両向けの不織布や縫製糸、結束紐などの受注は、中国におけるEV向けモーター結束紐の量産が本格化したこともあり、前年同期並みでした。車載電装品他製造ラインのファクトリーオートメーション設備は堅調でした。

## （環境関連分野）

中国の環境規制強化の流れから、集塵用フィルターなどの環境関連資材は堅調でした。エネルギー関連は前年同期並みでした。

## （その他産業関連分野）

OA向けおよび家電向け資材は低調でしたが、工業用資材は堅調でした。半導体関連装置および画像検査装置は低調でした。

## （生活関連分野）

ラケットスポーツ関連は、海外向けの低調をソフトテニスガットの新品がカバーし、前年同期並みでした。フィッシング関連は、「フィッシングパーク」の運営が寄与し、前年同期並みでした。生活関連資材は、中国経済失速の影響で楽器用が低調でした。

## ③人とみらい開発事業

人とみらい開発事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高8,776百万円（前年同期比17.3%減）、営業利益1,431百万円（前年同期比6.3%増）となりました。

## （開発関連分野）

商業施設運営関連については、昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動はあったものの、2019年4月にリニューアルオープンした「ニッケコルトンプラザ」（千葉県市川市）が好調に推移し、堅調でした。また建設関連においても前年同期を大きく上回る受注状況となったことに加え、2019年4月に電気設備工事会社がグループに加わったこともあり大幅な増収となりました。

（ライフサポート分野）

保育・学童保育関連については、2019年4月にバイリンガル幼稚園（千葉県市川市）を開園したことが売上に貢献しております。介護関連に関しては、2019年10月に訪問介護関連会社がグループに加わったことや、施設への入居数が増加したこと、スタッフを増強したこと等の効果が表れ好調でした。一方、スポーツ関連については、利用者数も減少傾向にあり低調でした。

（通信及び新規サービス分野）

通信関連については、携帯事業を取り巻く環境に対応すべく事業再編を行っており大幅な減収となりました。新規サービス関連については、菓子類販売、児童向けアミューズメント施設の新規出店の効果はあるものの、T S U T A Y A不採算店舗の閉店が影響し低調でした。

#### ④生活流通事業

生活流通事業の当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高4,641百万円（前年同期比11.0%減）、営業利益438百万円（前年同期比9.6%減）となりました。昨年の消費税増税前の駆け込み需要の反動を受けました。

（寝装品及び業務用品分野）

E C向け寝装品は暖冬の影響や一部商流の見直しにより販売が減少しました。また災害用備蓄毛布の販売も低調でした。

（生活雑貨分野）

100円ショップ向け雑貨の販売は前期同期並みでしたが、家具販売は低調でした。またE C向け生活家電は昨年の消費税増税前の駆け込み需要の反動で低調でした。

（ホビー・クラフト分野）

スタンプ販売は前年同期並みでしたが、スタンプ用インクの販売は低調でした。乗馬用品販売は前年第3四半期に株式会社日本馬事普及がグループに加わったこともあり、好調でした。

（その他）

保険代理店の業績は前年同期並みでしたが、コンテナ販売は新規設置が減少し低調でした。

#### （2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年1月15日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,088	24,059
受取手形及び売掛金	30,167	26,829
商品及び製品	16,175	18,518
仕掛品	6,951	6,621
原材料及び貯蔵品	1,925	2,081
その他	1,792	1,866
貸倒引当金	△74	△68
流動資産合計	82,027	79,910
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,305	25,047
機械装置及び運搬具（純額）	5,357	5,153
土地	7,402	7,476
建設仮勘定	454	662
その他（純額）	934	912
有形固定資産合計	39,454	39,251
無形固定資産		
のれん	1,412	1,337
その他	706	718
無形固定資産合計	2,118	2,056
投資その他の資産		
投資有価証券	21,154	20,635
長期貸付金	2	2
破産更生債権等	136	129
長期前払費用	291	291
退職給付に係る資産	334	335
繰延税金資産	933	856
その他	2,415	2,315
貸倒引当金	△162	△155
投資その他の資産合計	25,106	24,410
固定資産合計	66,679	65,718
資産合計	148,707	145,628

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,484	12,568
短期借入金	13,766	16,751
1年内償還予定の社債	110	110
未払法人税等	2,319	441
引当金	734	749
その他	7,937	7,093
流動負債合計	40,353	37,715
固定負債		
社債	10	5
長期借入金	3,589	3,538
繰延税金負債	1,210	1,031
退職給付に係る負債	2,452	2,411
長期預り敷金保証金	6,704	6,657
資産除去債務	406	407
その他	636	612
固定負債合計	15,009	14,664
負債合計	55,362	52,379
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,465	6,465
資本剰余金	4,468	4,468
利益剰余金	86,398	86,632
自己株式	△9,434	△9,434
株主資本合計	87,898	88,132
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,095	3,787
繰延ヘッジ損益	78	64
為替換算調整勘定	182	198
退職給付に係る調整累計額	△344	△320
その他の包括利益累計額合計	4,012	3,730
非支配株主持分	1,434	1,386
純資産合計	93,344	93,249
負債純資産合計	148,707	145,628

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
売上高	27,856	25,856
売上原価	20,986	18,508
売上総利益	6,869	7,347
販売費及び一般管理費	5,230	5,515
営業利益	1,639	1,832
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	244	172
その他	77	122
営業外収益合計	328	298
営業外費用		
支払利息	21	17
為替差損	45	13
持分法による投資損失	35	83
その他	84	78
営業外費用合計	186	193
経常利益	1,780	1,937
特別利益		
固定資産売却益	159	—
投資有価証券売却益	221	7
特別利益合計	380	7
特別損失		
投資有価証券評価損	—	30
事業構造改善費用	459	—
特別損失合計	459	30
税金等調整前四半期純利益	1,701	1,915
法人税、住民税及び事業税	775	689
法人税等調整額	△111	25
法人税等合計	664	714
四半期純利益	1,036	1,200
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	38	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	998	1,210

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
四半期純利益	1,036	1,200
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,278	△281
繰延ヘッジ損益	△42	△13
為替換算調整勘定	15	△5
退職給付に係る調整額	36	23
持分法適用会社に対する持分相当額	△10	△5
その他の包括利益合計	△1,279	△282
四半期包括利益	△242	917
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△283	929
非支配株主に係る四半期包括利益	41	△11

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

（1）連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、重要性が増したため、ホクレン㈱、㈱スクーデリア他1社を連結の範囲に含めております。

（2）持分法の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自2018年12月1日至2019年2月28日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)外部顧客への売上高	6,695	5,326	10,617	5,215	27,856	—	27,856
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	73	42	152	136	404	△404	—
計	6,768	5,369	10,770	5,352	28,261	△404	27,856
セグメント利益	65	171	1,346	485	2,068	△429	1,639

(注) 1. セグメント利益の調整額△429百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△429百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間（自2019年12月1日至2020年2月29日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注3)	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計			
売上高								
(1)外部顧客への売上高	6,068	5,560	8,776	4,641	25,046	809	—	25,856
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	73	42	153	101	370	—	△370	—
計	6,141	5,603	8,929	4,743	25,417	809	△370	25,856
セグメント利益	104	299	1,431	438	2,274	△13	△427	1,832

(注) 1. セグメント利益の調整額△427百万円には、セグメント間取引消去△1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△425百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。